



成果指標				
成果指標	全小学校への少年消防クラブ結成を目標に、結成率から進捗度を測る。(目標)市内全小学校 9校(実績)5校			
指標設定の考え方	少年消防クラブの活性化は防災教育の面からも重要であり、全小学校での結成を実現し、併せて活動内容の充実に努める。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	100%	100%	0	0
実績	55%	55%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	5	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	5	
		受益者負担の適正	5	
課題認識	東日本大震災を教訓に、防災については、幼少期から成長に応じて学習できるシステムが必要不可欠である。特に少年消防クラブにおいては、消防教室や体験学習を実施及び体験する機会を通じて防災についての理解と関心が深めることができる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	少年消防クラブ、婦人防火クラブの活動を通して防災・減災教育を進め、大規模・複合災害に備えられる体勢作りが求められるところに本事業を継続する意義がある。補助金支出による間接的な執行であるが、消防団運営を含め、補助金の使途など精査し、より高い効果が得られるよう指導を続ける。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題